言葉の力

小学校に入る前の保育園（幼稚園、子ども園）でのことです。保護者と子どもとの会話を聞くと、この子は将来伸びる子かどうかが大体分かると言われます。

例えば、夕方になって、子どもを迎えに来た保護者と子どもとの会話で、「今日はちゃんとやったの。」「ちゃんとやったよ。」「どれとどれをやったの。」「〇〇と〇〇をやったよ。」「分からないところがあったの。」「△△と△△が分からなかった。」ごく普通の会話ですよね。でも、会話をよく聞いてみると、こうでない家庭が９割くらいあるそうです。「今日はちゃんとやったの。」「うーん・・・、ていうか、お腹すいた。」「そういえば、お母さん、夕ご飯の買い物に行かなければいけなかった。早く帰るよ。」

前者は、お互いに聞いたことに対して的確に答えています。後者は、質問したことに答えず、自分の思っていることを話しているだけです。前者は、キャッチボール型会話であり、後者は、玉入れ型会話です。どちらの会話が将来伸びる子になるでしょうか。それは、キャッチボール型会話です。質問にきちんと答えることができるためには、相手の話を聞いて、何を答えればよいかが分からないといけません。テストの文章題は、問題を作っている人の意図を読み取らなければいけません。聞く力は、小さい頃から、毎日の会話の中で身に付いていきます。

高濱さんは、４歳から大学まで継続して教えてきた経験から、将来伸びる人は、テストの点数が取れることだけではなく、「意欲×集中力×経験×言葉」の４つが大切であると言われています。その中の「言葉」の力は、家庭の文化そのものであり、両親の生き方そのものであるそうです。今日からでもできることは、次の３つです。

（１）分からないことがあったら、調べる癖をつける。

（スマホでもよいが、紙の辞書も経験することが大切）

（２）正しい言葉を使う。

（例えば、「今日、〇〇さんから突然、お誕生日おめでとうとプレゼントをもらったの。私、今日、とても楽しかった。」と言われたら、「楽しかったではなくて、うれしかったでしょ。」と正しい言葉の使い方を教えてあげること）

（３）聞いたことに答える。

何気ない会話でも、聞かれたことに答え合ったり、お互いの思っていることを投げかけ合ったり、おうちの中から、言葉のキャッチボールを楽しめるような、キャッチボール一家をめざしたいですね。

参考：テレビ寺子屋　高濱正伸